

# I 総論

## 1 和歌山市のあらまし

(1) 地 勢

(2) 市 勢

(3) 人 口



# I 総論

## 1 和歌山市のあらまし

### (1) 地勢

和歌山市は、紀伊半島の北西部に位置し、北はみどり豊かな和泉山脈ののどかな山並みに囲まれ、西は風光明媚な紀淡海峡に面し、紀の川の河口に位置する和歌山県の県都です。

#### 位置及び地名

方位	地名	緯度 経度	距離	海拔	
				最高	最低
極東	上三毛	東経 135 度 19 分	東西 29.0km	490.2m	0.6m
極西	加太(沖の島)	東経 135 度 00 分			
極南	毛見	北緯 34 度 09 分	南北 17.5km		
極北	滝畑	北緯 34 度 19 分			
市役所本庁舎の位置	和歌山市七番丁 23 番地 東経 135 度 10 分 北緯 34 度 14 分				
面積	208.85 km <sup>2</sup> (令和 6 年 1 月 1 日現在)				

### (2) 市勢

和歌山市は紀の川の河口部にあることから、古くから外洋船舶と内陸河川交通の結節点として発展し、江戸時代には徳川御三家である紀州藩の城下町として整備されました。以後、和歌山県の県都として発展し、平成 9 年度より中核市となりました。史跡和歌山城や名勝和歌の浦、雑賀崎などの歴史文化資産や豊かな自然に恵まれる本市は、古くから皇族や貴族が訪れ、今日でも大都市近郊の観光都市として多くの人々が訪れるまちとなっています。

明治 2 年（1889 年）に市制を施行したときの人口は 5 万人あまりでしたが、地場産業の発展や周辺の町村との合併などにより人口が増加しました。また、昭和戦前期には大規模な製鉄所や化学工場を誘致し重化学工業のまちとして発展してきました。

市勢の進展とともに隣接町村を次々に合併して市域を拡大し、人口も日本の高度経済成長の波に乗って増加しました。昭和 60 年にピークに達しましたが、以降、人口減少に転じて現在に至っています。

現在は、少子高齢化・人口減少の時代変化に対応した、コンパクトで便利なまちづくりを目指しています。

### (3) 人 口

令和6年3月31日現在（住民基本台帳に基づく）

人 口 354, 837人

世帯数 176, 639世帯